

淡路風景街道モニターツアーとコミュニケーション効果

Report of communication effect concerning monitor tour that uses 'Scenery and history' of Awajishima

須田清隆(NPO 観光立島淡路島), 小濱哲(横浜商科大学), 丹治真紀子(ジオスケープ)

キーワード・淡路島・風景街道・目的型観光・コミュニケーション・棄てない料理

1. はじめに

現状、淡路島地域の観光は、宿泊要求が少ない通過型の観光地となっていることがうかがえる。地域経済への波及効果を高めていくには、通過型観光から脱却して、交流性の高い滞在型観光を目指すことが重要になり、淡路島地域に訪来することの価値や魅力を創造していくことが重要である。そのための手法としては、ただ地域を見て回るだけの観光ではなく、そこにある種の目的を付加して淡路島での滞在やリピート率を高めていく『目的型の観光戦略』の発想が重要になる。

淡路島地域の観光として『目的型観光』を成功させていくためには、同一の目的を持った顧客市場のニーズを把握する必要がある。そのためには、顧客市場に淡路島地域において顧客満足を満たすことができるというイメージを抱いてもらうことが必要になってくる。本報告は、目的型観光の社会実験として、健康効用を目的にして、目的達成のためのイベントの必要要件についてまとめている。

2. 「あわじ歴史浪漫・風景街道」とは

「あわじ歴史浪漫・風景街道」は、淡路島の風景をゆっくり楽しみながら走る道づくりを目指すものである。しかしこれは、単なる「風景の道づくり」ではない。この「道」は、淡路島の人々の「生活のあり方」あるいは「生き方」「価値観」を感じさせる役割も担っており、それが、観光客にとっての地域の魅力となり、滞留・滞在にもつながるものといえる。「あわじ歴史浪漫・風景街道」では、淡路島への訪来者が地域の人々の心の壁に触れ、地域を実感することで、淡路島の魅力に深く触れることができるよう、「淡路島の風景の味わいかた」をわかりやすく伝える方策を提案している。

3. モニターツアー設計の考え方

淡路島の風景の味わいかたをツアーで実現するために、地域固有の資産であり、内面的な安定と自己発見につながる機能を持つ、伊弉諾神宮、若人の広場を選び、地域の生い立ちを理解するために洲本城と厚浜の弘法大師などを選定している。たとえば伊弉諾神宮では敬虔な気持ちで神楽を体験し若人の広場ではその歴史理解とともに、稀に遭遇できる幻想風景（天使の梯子）の期待感を演出している。農業体験を取り入れているチューリップの館では、不登校の子供たちと触れ合うことで、演出のない感動に触れることを期待している。

また、伊弉諾神宮や五色県民健康村では、専門性の高い話をわかりやすく聞くことで、参加者の知的な好奇心を大いに高めることを狙った。エステの実技では、集団で専門的な話と具体的な施術をみる機会に触れ、一日の疲れを癒す効果的な方法に関して直接学ぶことで、集団がその効能を直接共有する環境づくりを狙った。

食事では、従来の旅館料理でなく、料理毎に熱量や素材や栄養分などを説明かつ、表記して、ツアー客側に心理的な制限を与える工夫をしている。

表1 モニターツアーイベント

	モニターツアー
1	伊弉諾神宮（お神楽）
2	若人の広場 淡路の幻想風景「天使の梯子」
3	道の駅うずしお 鳴門のうずしお
4	美と健康の体感研修
5	三熊山ボランティアガイド
6	御食国
7	厚浜の弘法大師（水の大師）
8	鮎屋の滝
9	ウェルネスパーク五色
10	五色県民健康村 健康道場
11	五色元気回復学校チューリップの館

4. モニターツアー結果

モニターツアーで実践した主なイベント内容を以下に説明する。

表2 モニターツアー概要

実施場所	淡路島
実施日	2009・2・20、21
参加者	36名（男17名 女19名） 主な参加地域 沖縄・東京・静岡・長野・大阪

(1) 伊弉諾神宮

伊弉諾神宮（淡路市多賀）は、国生み神話で知られる淡路一の宮である。本名孝至宮司より国生み神話についての講話を伺った後、神事である御神楽を見学。ツアー参加者にとって、伊弉諾神宮の歴史的背景やその根拠を、直接宮司から聞くことにより、その印象度とともに関心度が高いものになっていた。



写真1 伊弉諾神宮での講話と御神楽等の様子

(2) 人の広場

若人の広場（南あわじ市阿万塩屋町）は、1967（昭和42）年に建設された、全国唯一の学徒動員の慰霊施設であったが現在は廃墟に近いものになっている。ツアーでは、この廃墟のもつ意味を伝えることと、立地的に瀬戸内の眺めや、運が良ければ見ることができる幻想的な風

景である、雲間から差し込む太陽光線が表す「天使の梯子」での感動を期待した。幻想風景が創る空間の持つ雰囲気を活用して、ヒーリング体操の効能を体験させた。

ツアーでは、何時でも見ることができない「天使の梯子」を見れたことによる参加者共有の感動が、ヒーリング運動でもその効能が感情の部分での理解を深める効果をもたらしていた。

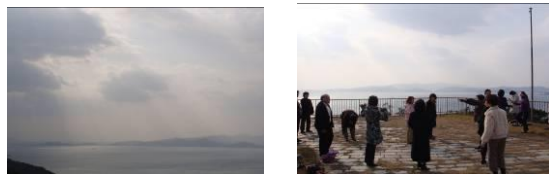


写真2 天使の梯子 とヒーリング体操

(3) 美と健康の体感研修

夕食前の時間を使って、講師 岡真知子氏（インターナショナルヒーリング協会代表）より「美と健康の体感研修」が実施された。フラ体験では、講師による実演後、参加者全員でフラを体験。女性にとってはツアー参加の目的になっていたこともあり熱心に受講していた。当初、ツアー参加の男性陣には抵抗があったが、健康とフラの関連を説明され、男性には関係ないとのイメージが、運動部分には男女共通に認識ができた段階で、フラへの抵抗感がなくなり、積極的に参加して楽しんでいた。



写真3 フラ集団体操

(4) 五色元気回復学校チューリップの館

師友塾「チューリップの館」は不登校や引きこもりの中高生を対象とした全寮制学校であり、素晴らしい自然環境の中、地域農業への参画により、精神的な自己回復を実現している。従来は、教育施設は観光施設としては不適切と考えていたが、地域に溶け込んでいる元気回復した子供たちにとって、外客との接触も自己表現の機会ととらえて、事前に関係機関との調整を図りツアールートに選定している。



写真4 和太鼓演奏

(5) 五色県民健康村

五色県民健康村の健康道場は、国内唯一の断食による健康な体作りを行う施設である。健康道場の施設を見学した上、身体・精神両面からの健康づくりをテーマにした講話を拝聴した。



写真5 健康講話

(6) 棄てない料理

料理のテーマは、「地産地消」「棄てない料理」を第一にして、健康を意識できるおもてなし料理メニューを

提供した。具体的には、地産地消として淡路島産の新鮮な食材を活かすため、事前にメニュー検討を実施、生産者との調整を行い計画を実施している。棄てない料理としては、従来は生ゴミで処分される素材の二次利用により、調理段階の廃棄量を30%低減している。ただし、料理価格としては、材料費や人件費等を含めて一人当たり一日 6000 円（飲食は含まず）での献立計画を行った。



写真6 地産地消と棄てない料理

5. 考察

モニターツアーでは、ツアー終了後に各イベントに關する印象度の強さ（5点評価）をアンケートで実施している。平均点が4点以上のイベントは、全て施設側とツアー客のコミュニケーションの工夫がなされたもので、顧客への印象度高める上でコミュニケーションの有効性が考察できる。

表3 モニターツアー印象度評価（5点評価）

	評価項目	印象度
1	五色元気回復学校チューリップの館	4.94
	農業体験により体内時計回復を実現	
2	伊弉諾神宮(お神楽)	4.89
	ヒーリングポイント探し	
3	美と健康の体感研修	4.56
	(フラ～デモンストレーション～えな舞い)	
4	五色県民健康村	4.29
	我が国唯一の断食道場	
5	三熊山ボランティアガイド	4.17
	海人族のなごり	

また、料理においても同様で、料理のコンセプトの説明や、従来の一人当たりの熱量摂取量に対する10%削減への工夫や、バイキング方式による食べ残し量の削減などの環境配慮の料理の工夫を説明することで、モニターの評価価格が提供者の希望価格に比べて2割程度高まることが確認される。

表4 棄てない料理評価価格

	希望価格(円)	評価価格(円)※
一日目昼食	1000	1675
一日目夕食	4000	4850
二日目朝食	1000	1423
全体食事価格	6000	10500

※「評価価格」はアンケートによるそれぞれの評価である。

6. まとめ

ツアーを構成するイベントにおいては、各イベントの持つ特殊性からも、コミュニケーション手法によって、イベントや商品の評価が向上することが確認できた。特に、認知度の高い地域資産である鳴門の渦潮に比べて圧倒的に認知度が低い地域資産であっても、テーマ性とコミュニケーションの工夫で印象度・魅力度ともに高くすることが確認できた。